

ノア Smile

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp



～目次～

- 病院短信 宮川 妙子
- 日常の一コマ 萩澤 久美子
- いきいき看護・介護 山崎 陽子
- P SWだより 渡邊 正基
- 誕生日会 各病棟デイルームにて
- スタッフ紹介 鈴木 陽子

5月の予定



◇誕生日会

- 1病棟 5月 8日(月)
 - 2病棟 5月12日(金)
 - 3病棟 5月 9日(火)
- 各病棟デイルーム 14:00～



風船バレー

誕生日会



毎月、その月に誕生日を迎える皆さんを楽しいイベントと共に祝いしています。



まずはジャンケンで順番決め



一枚頂きますよ



こっちはしょうかな

ババ抜き



徐々にカードが少なくなってきた



遂に決着の時



もう1回勝負よ!

スタッフ紹介

1病棟看護師
すずき ようこ
鈴木 陽子

星座：ふたご座
趣味：観劇
好きな食べ物：果物



1月に入职して3か月が経ちました。まだ分からないことも多く右往左往する毎日ですが、周りの先輩方に助けをいただきながら日々勤めています。プライベートでは、コロナ禍以前の趣味で、最近は足が遠のいていた観劇に久々に行くことになり、とても待ち遠しい思いです。こうして少しずつ、患者さんも含めた皆様が日常を取り戻していければ、と願っています。



病院短信

『丁寧に見つめる』

3病棟 看護師長 宮川 妙子

端午の節句が近くなると、正面玄関には五月人形が飾られます。お散歩に行く患者さんがそれを見て懐かしそうに微笑んでいました。さて、『みる』という言葉には様々な意味合いがあります。次に挙げるように、漢字によってニュアンスも変化します。

【見る】意識することなく物を目で捉える様子

【視る】注意してじっくり目を向けること

【観る】意識して広く全体を見るさま

3病棟では56人の患者さんが生活していますが、スタッフは広く全体の様子を観て、患者さんが安心出来るように日常を支援しています。今年度、看護部で取り組んでいる「ユマニチュード」のケア技法から、今回は「見る」ケアの技法についてお話ししたいと思います。

4月に実施した院内研修では、患者さんが普段どのような状態で物を見ているのかを再認識することが出来ました。認知症の患者さんは、脳が萎縮することで徐々に視野が狭くなります。例えば、トイレトペーパーの芯を2つ双眼鏡のように目に当ててみると、前方の狭い範囲しか見えません。このような状態で音がしても、どこから聞こえたのか分からず混乱してしまいます。高齢になり視力低下も加わることを想像すると、患者さんの置かれた状況をイメージ出来ます。



日常の一コマ

今月は2病棟の達代さんをご紹介します。達代さんは東京都墨田区に4人兄弟の次女として生まれ、洋裁学校を卒業後、洋服の仕立ての仕事をしていました。25歳で結婚、2人のお子さんに恵まれ、ご自分で洋服販売店を営んでいました。温厚で優しい達代さんをご近所付き合いも良く、庭いじりやウォーキングなどを楽しんでいました。

平成21年にご主人が他界。同居していた長男さんは仕事が忙しく、達代さんはほぼ一人暮らし同然となりました。平成27年頃から徐々に物忘れが出現し、電化製品が使えなくなりました。また、平成30年にアルツハイマー型認知症と診断され、心不全の悪化や骨折などで入院を繰り返したそうです。当院入院前にいた精神科病院では、大声を出したり歩き回って転倒したりを繰り返したため、抑制帯（手足や体幹をベッドに固定させるための帯）を外せない状況でした。その後、認知症専門病院への長期入院をご家族が希望されたため、令和4年4月に当院へ入院することとなりました。

入院直後の達代さんは、「助けて下さい！お願いします！」と大声で繰り返し叫んでいました。ところが、急いで駆け寄って声を掛けても、特に理由を訴えることもなく黙り込んでしまうのです。きっと抑制帯の恐怖がまだ残っていたのでしょう。そこで私たちは、常に達代さんのそばに寄り添って不安の軽減を図りました。

ある日の夜、達代さんの病室へ巡視に行くと、ベッドサイドの床に横たわっている達代さんを発見しました。幸い骨折はなかったのですが、おでこに大きなたんこぶが出来ていました。さらに、日が経つにつれて内出血が顔全体に広がっていきました。達代さんの顔を見るたびに、痛い思いをさせてしまったことを後悔し、とても辛かったです。



そんな達代さんも、今では「助けて下さい！」の言動は聞かれません。「トイレに行きたいです」とご自分の意思をちゃんと伝えることができます。トイレへ誘導すると「ありがとうございます、間に合いました」と笑顔で言って下さいます。認知症の患者さんは、出来ない事が増えていくのが普通ですが、出来なかったことが出来るようになると、私たちスタッフはこの上ない喜びを感じます。

達代さんは接客業をされていたこともあり、言葉使いが丁寧で品のある女性です。これからもたくさんお話をして、笑顔の素敵な達代さんがいつまでも穏やかに過ごせることを願っています。

2病棟 介護員 萩澤 久美子



そこで、認知症の患者さんをケアする時は、正面からしっかりと瞳を合わせて、ゆっくりと顔を近づけていきます。そして、長く見つめ合って、ゆっくり優しく声をかけるようにします。これは、正直さや信頼感、優しさや親密さ、友情や愛情を表現しています。かける言葉は、「こんにちは」「〇〇さん、これから食事の用意をしますね」「今日は会えてうれしいです」「顔色がいいですね」「大丈夫です」「心配ないですよ」などです。患者さんが話したいときは、目を見て静かに傾きながら聞き、訴えを否定しないようにします。患者さんの反応はいつも良いとは限らないので、試行錯誤の毎日ですが、これまでの経験を活かしてユマニチュードの技法が自然に出来るようにしたいと思います。

認知症は脳の病気で、自分の病気を理解している患者さんはいません。入院していることも分からないため、不安やイライラが募り、言いようのない苦しみを抱えています。患者さんの不安な気持ちを少しでも軽減して穏やかな方向に向くように、患者さんの想いを想像しながら一つ一つのケアを丁寧に行っていくしたいと思います。

PSW だより

精神保健福祉士 渡邊 正基

気の早い話ですが、満開に咲き誇っていた院庭の桜が散ると夏の気配を感じてしまいます。私は気温が暖かくなると体調が良くなるのですが、皆さんはいかがでしょう？ちなみに、患者さんたちもこれから活動意欲が湧いてくる時期に入ります。普段はあまり動かない方が急に立ち上がったたりもするので、転倒・転落事故には一層注意してまいります。

さて、先月当院ではご家族をお招きしてお花見会を実施しました。当日は天候にも恵まれ、非常に多くの方に足を運んでいただき、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルスの影響で、当院でも長らく大規模な行事を自粛してきましたが、面会を含め少しずつ以前の姿に戻りつつあります。なるべく多くのご家族に患者さんと良い時間を過ごしていただくためにも、こういったイベントを今後も大切にしていきたいと思っております。

いきいき看護・介護

2病棟 介護福祉士

山崎 陽子

病院の周りには田んぼに水が入り、今年も田植えの季節がやってきました。気温も上がるこの時期、患者さんにとってはお過ごしやすく、お散歩や畑作業などで外に出ることも多くなります。一般的に「適度な日光に当たることにより、心と体を元気に保つことができる」と言われていますが、なぜでしょうか。

日光に当たると人間の体内にはビタミンDが作られます。ビタミンDは紫外線により生成される珍しいビタミンですが、カルシウムの吸収を助け、骨を強くして免疫力を向上させる働きがあります。また、太陽光などの強烈な光を網膜が感じると、「セロトニン」という物質が分泌されます。このセロトニンが増えることで、ストレス解消・集中力アップ・気持ちは明るくなる、などの効果が期待できます。さらに、朝起きてすぐ日に当たることは、体内時計をリセットして生活リズムを整える効果もあるようです。

春・夏の日光浴の目安時間は1日15分程度とのことです。熱中症にならないように気を付けつつ、患者さんに季節を感じてもらいながら、外でのお散歩や活動を楽しくしていきたいと思

